

# 自己評価結果公表シート

池田五月山教会幼稚園

## 1、本園の教育目標

キリスト教の理念に基づき、自己を愛し、他者を愛する自律した豊かな人間性を培うことを目指す。

- 1、一人ひとりの個性を尊重し、発達に応じた適切な環境を整える。
- 2、自由活動を通して自ら心を動かし、考え、探求し、判断できる子どもを育てる。
- 3、遊びを通して、想像力、創造性を育てる。

※育てたい5つの力

- ①人の話を聞く力
- ②生活のルールを通して社会のルールを守る力
- ③集中して取り組む力
- ④良い人間関係を作る力
- ⑤豊かな感性・五感を育てる力

## 2、2022年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目にそって自己点検、自己評価を実施することによって、職員自らが客観的に自園を見つめる目を養い、施設の点検、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

## 3、2022年度 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
支援教育	<ul style="list-style-type: none"><li>・個別の支援計画や指導計画をもとに、支援方法の共通理解を図った。</li><li>・保護者との信頼関係を築き、情報の共有につとめ、相互理解を図った。</li><li>・専門機関との連携、事例検討などを通して学んだ。</li><li>・それぞれが課題を持ち、積極的に研修会に参加しその情報を共有できるようにした。</li></ul>
安全管理	<ul style="list-style-type: none"><li>・防犯意識を高め、保護者の意識も高まるよう働きかけた。</li><li>・さまざまな想定のもと実施している避難訓練に防犯訓練を取り入れた。</li><li>・ヒヤリハットを導入し、職員の安全管理の意識づけを強めた。</li></ul>
異年齢保育	<ul style="list-style-type: none"><li>・異年齢児混合保育についての学びを深めるため、保育実践の振り返りの機会を重ねた。</li><li>・異年齢、学年ごとのどちらのカリキュラムをも立案し、必要な経験が漏れないように配慮した。</li><li>・クラスだよりと学年だより・ホームページや掲示板を通して保育の可視化につとめ、保護者の理解を求めた。</li></ul>

保護者の満足度の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掲示板やホームページを利用し、保育の様子や、取り組みなどを共有できるようにした。</li> <li>・ 学年の成長を共有できるように学年懇談会を開いた。</li> <li>・ 園の保育について理解を深め、情報発信し安心して過ごせるように努める。疑問や質問にはその都度丁寧な対応に努めた。</li> </ul>
------------	---

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

職員一人ひとりが自分の保育や園務などの役割を振り返り、自己評価・自己点検できる意識をもつようになった。外部研修や園内研修などの学びを通して個々の保育者の質を高めると共に、園としての保育の質の向上につなげる。そのため全員で話す機会を積極的に作り、共通の理解と価値観が持てるように努めた。配慮の必要な子どもたちについても園全体で見守ることを大切にし、どこにいても誰といっても必要な援助が出来るよう努めた。異年齢保育が教会幼稚園の保育として定着してきたことは、異年齢保育を当園の保育として理解し、協力してもらえるように、保護者に情報発信することを大切にしてきたことの評価と考え、これからも保護者との協働を深めていく。

#### 5、今後取り組むべき課題

評価項目	取組状況
支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別の指導計画をもとに、支援方法の共通理解を図る。</li> <li>・ 保護者との信頼関係を築き、情報の共有につとめ、相互理解を図る。</li> <li>・ 専門機関との連携、事例検討などを通して学ぶ。</li> <li>・ それぞれが課題を持ち、積極的に研修会に参加しその情報を共有できるようにする。</li> </ul>
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防犯意識を高め、保護者の意識も高まるよう働きかける。</li> <li>・ さまざまな想定のもと実施している避難訓練に防犯訓練を取り入れる。</li> <li>・ 救急、救命講習会を企画し保護者も一緒に参加できる機会を作る。</li> <li>・ 門扉の改善について検討する。</li> <li>・ ヒヤリハットでの気づきを共有し、改善策を講じる。</li> </ul>
異年齢保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異年齢児混合保育についての学びを深めるため、保育実践の振り返りの機会を重ねる。</li> <li>・ 異年齢、学年ごとのどちらのカリキュラムも立案し、必要な経験が漏れないように配慮する。</li> <li>・ 年齢ごとの経験を大切にするため学年の時間を増やす。</li> <li>・ クラスだよりと学年だより・ホームページや掲示板を通して保育の可視化につとめ、保護者の理解を求める。保護者の読みやすい構成に工夫する。</li> </ul>
保護者の満足度の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育理念に則り、園の独自性・特色を大切にすると共に、保護者のニーズを把握し、今後の園のあるべき姿を</li> </ul>

	<p>検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園の保育について理解を深め、情報発信し、安心して過ごせるように努める。疑問や質問にはその都度丁寧な対応を心掛ける。</li> <li>・連絡網を廃止し、メール配信を導入</li> </ul>
--	--

## 6、学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ下の制限がある中で、常にその時に一番良い保育を実践していた。</li> <li>・コロナ以前の行事を取り戻していき、園児・保護者を含め、初めてを経験する人が多かったが、丁寧な説明、周知がなされた。</li> <li>・1つ1つのイベントを保護者同士も協力して行うことで子どもや親の絆も深まり良い関係が出来た。</li> <li>・子ども達のマスクの制限を早く外してくれて、有難かったし感激した。</li> <li>・子どもも親も自分らしく居られる園、もっと広報してたくさんの人に良さを知ってもらいたい。</li> <li>・園全体の雰囲気が好き。コロナ前に戻すことにこだわりすぎず、時間をかけて園児と保護者に寄り添いながら物事が前に進んでいる。</li> <li>・どの先生も丁寧で、愛情をいっぱい感じる。先生方の愛情がきちんとこども一人ひとりに向けられている。</li> <li>・周りの保護者の「子どもへの期待」からくる難しさを感じる。園での保育は任せて、すべてを保護者が知る必要はないと考えるが、そうではない方もいる。</li> <li>・集団の中でのいろいろな感情の経験も後の財産になる。</li> <li>・子ども達にプラスになるような保護者の幼稚園へのかかわりが続くように。</li> <li>・異年齢保育が園児の人格形成に豊かな影響を与えていることを年長児だった我が子の姿を見て改めて感じる。</li> <li>・異年齢保育の中で育った子ども達は園を離れた私生活でも活かされている。</li> <li>・避難訓練や年長のCAPの継続は自分自身を守り、大切にすることを意識を持って生活することにつながっている。</li> <li>・運動会での子ども達の姿を見て、日々の保育の中でも団結して出来る遊びがあると応援する喜びや応援される嬉しさや励ましの言葉が身につく5つの力にもつながると思う。</li> <li>・保護者の生活スタイルに合わせてお知らせメールの配信が有難い。</li> <li>・ラインの登録が一人しかできないことに不便を感じる。災害時など園児一人に対し2人は登録できた方が良い。</li> <li>・予定を忘れてしまう保護者もいるので、気軽にフォローメールも活用できると良い。</li> <li>・門の老朽化に伴い、開閉しづらいので改善策を打ってほしい。</li> <li>・園庭に自転車を停めると自転車が倒れそうになり少し怖い。</li> <li>・役員として力を合わせていろいろな事に取り組むことで仲良くなり楽しく過ごし、良い経験でした。部活動のような文化祭の準備のような日々でした。</li> <li>・仕事をしている保護者が増えて来ると思うので、例年の慣例ではなくその年々のカラーで出来ることを出来る人がするというようになると、4役に仕事が集中しないようになる。</li> </ul>
--